



幼若血小板比率 (IPF) について

血液内科 寺崎 靖

骨髄の巨核球から産生されたばかりの新しい血小板は、細胞質が RNA に富む網血小板と呼ばれており、骨髄の血小板産生能を反映することが以前から知られていました。しかし、網血小板の測定には特殊技術が必要なため、一般への普及が遅れていました。

当院で使用している血球分析装置は、シスメックス社の多項目自動血球分析装置XN-3100ですが、これにPLT-Fチャンネルを搭載しています。PLT-Fチャンネルとは、血小板を特異的に染色しフローサイトメトリー法で分析を行うオプションチャンネルであり、これを使用することによって、より精度の高い血小板数を測定することができます。更にこの測定原理の活用により、網血小板の代替として「幼若血小板比率 (immature platelet fraction: IPF)」の自動測定が可能となりました。

IPFは骨髄の血小板産生能を反映し、骨髄巨核数と相関します。IPFの測定で最も力を発揮する場面は、血小板減少時です。血小板減少症の原因は、①骨髄での血小板産生低下、②末梢での血小板破壊・消費亢進、③その他に分類できます。①の代表は、再生不良性貧血 (AA) や化学療法直後であり、②では免疫性血小板減少症 (ITP) が挙げられます。AAの初期では血小板数は減少していることが多く、ITPと鑑別が困難なことがあります。しかし、一般にAAではIPFは上昇しませんが、ITPでは上昇しているため、診断の一助となります (図)。とは言っても骨髄

検査に置き換わるものではないことに注意が必要です。なお、IPFは高値かどうかで評価するため、低値の臨床的意義は不明であり、「IPF低下=血小板造血能低下」とは言えません。また、基準範囲は標準化されておらず、施設ごとに基準範囲を設定する必要があります (当院: 男性0.9~5.4%、女性1.0~4.8%)。当院では現在検査項目にはなく、臨床検査技師に依頼し測定していますが、今後は電子カルテからオーダーできるように改善していく予定です。

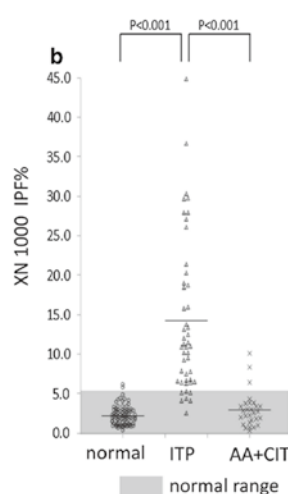


図
ITP: 免疫性血小板減少症
AA: 再生不良性貧血
CIT: 化学療法による血小板減少症
Sakuragi M, et al. Int J Hematol. 101: 369-375, 2015.

女性の9人に1人が乳がんに — 多職種で支える乳腺外科外来

外科 竹中 哲

乳がん看護認定看護師 石倉 誠子

近年、乳がんは年々増加しており、現在では女性の9人に1人が罹患するとされています。特に40～50歳代という、仕事や家庭で重要な役割を担う世代に最初の発症のピークがみられるため、治療と生活の両立に悩む患者さんが少なくありません。また、治療後も長期にわたる経過観察が必要となり、再発や転移への不安を抱えながら日常生活を送る方も多いのが現状です。そのため、医学的な治療だけでなく、患者さんの気持ちに寄り添い、意思決定を尊重する姿勢がより一層重要となっています。

当院乳腺外科外来では、医師のみならず、乳がん看護認定看護師、がん看護専門看護師、外来看護師など多職種が協働し、患者さん一人ひとりを多角的にサポートする体制を整えています。乳がん患者さんに限らず、検診で要精査となった方や乳腺炎など良性疾患の方に対しても、各職種間で情報共有を行い、患者さんの不安を和らげ、安心して受診いただけるよう努めています。

検査においては、従来のマンモグラフィに加えて**3Dマンモグラフィ（トモシンセシス）**を導入しております。乳腺の重なりを低減し、高濃度乳腺の評価精度を向上させるとともに、被ばく線量もガイドライン基準を下回るよう設計されており、安全性にも配慮しています。これにより、より正確で負担の少ない検査が可能となっています。さらに、当院ではがん看護分野に熟練した看護師が毎日交代で外来に対応しており、治療や生活に関する些細なことでも気軽に相談できる体制を構築しています。患者さんが自分らしく希望を持って生活できるよう、医療と生活をつなぐ支援を大切にしています。

地域の先生方からご紹介いただいた患者さんについては、診断・治療方針を速やかにご報告し、今後も密接な連携を大切にしていまいります。乳腺に関する症状や検診結果でご相談のある際には、ぜひ当外来へご紹介くださいますようお願い申し上げます。これからも地域から選ばれる病院を目指して努力してまいります。



研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日 時：10月14日（火） 19：00～20：00 場 所：当院3階 講堂

1）症例検討

『若年男性に発症した運動後急性腎障害の一例』

腎臓内科 小川 晃寛

2）ミニレクチャー

『全身麻酔と地球温暖化について』

麻酔科 津田 翔

地球温暖化は、大気中の温室効果ガスの増加によって地球の気温が上昇する現象である。温室効果ガスには二酸化炭素、メタン、フロンなどがあり、これらは太陽からの熱を地球に閉じ込める役割を持つ。化石燃料の燃焼や森林破壊により、これらのガスが大量に排出され、温暖化が加速している。結果として異常気象や海面上昇が進み、環境や社会に大きな影響を与えている。

地球温暖化係数（GWP）は、温室効果ガスの地球環境への影響を議論する上で長年指標とされてきた。温室効果ガスの赤外線吸収作用の程

度を、二酸化炭素を1としたときの係数がGWPである。

全身麻酔で使用される吸入麻酔薬も温室効果ガスに含まれている。特にデスフルランはGWPが高く、地球温暖化への影響が大きいと言われている。欧州連合（EU）では、「2026年1月以降、デスフルランの使用を禁じる、あるいは少なくとも厳しく制限する」という提案がされている。全身麻酔と地球温暖化への指標について概説し、麻酔科医が行える環境への対策を紹介する。

予告

令和7年度 富山市民病院 地域連携の会 講演会・懇親会のご案内

地域連携の会の開催を下記のとおり開催いたします。

今回は、地域の先生方や後方連携に関わる多職種の方々と交流を図る機会になればと考えております。皆様方との有意義な時間を楽しみにしておりますので、ぜひお越しいただきますようよろしくお願い申し上げます。

日 時：11月28日（金） 19：00～

場 所：ANAクラウンプラザホテル富山

内 容：演題：「ケアブックについて（仮）」

富山市民病院 呼吸器外科部長 土岐 善紀

「後方連携病院として（仮）」

うおざきファミリー病院 地域連携室スタッフ

②懇親会

※12月 拡大版地域連携症例検討会の開催はありません。

2. ダイアベティス研究会（旧：糖尿病研究会）

日 時：令和7年10月16日（木） 17：30～18：45

場 所：当院3階 講堂

テーマ：高齢者でもできる運動療法

講 師：理学療法士



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

経営管理課のご紹介

経営管理課では3つの係で構成されており、各係が連携して、適切な病院経営に努めているところです。

管理係では人事、給与及び福利厚生などに関する業務を、情報システム係では地域連携システムなどのシステム管理や医療器械の保守に関する業務を、経営企画係では予算、企業債など財政に関わる事務全般の他、経営分析、経営改善に係る業務を担っています。

近年、病院をとりまく環境は、医療従事者の確保や施設・設備の老朽化への対応、物価高騰によ

る材料費の増加など課題は多く、ますます厳しくなっています。このような中、当課の役割は、職員が心身ともに健康な状態で働けるようサポートするとともに、当院がこれからも患者さんに最良の治療を安心して提供できるよう、ITの推進や経営改善を継続していくことであります。

今後とも、「医療を通して皆様の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献する」という病院の「使命」を果たせるよう、職員一丸となって業務に取り組んでまいりたいと考えております。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

10月

科 名	医 師 名	不 在 日
内 科	大 田 聡	17日、23日、24日
外 科	宮 下 知	2日、3日、10日、17日、31日
	加 納	2日
	竹 中	3日
	久 野	10日、14日、31日
呼吸器・血管外科	湖 東	9日、10日、17日
小 児 科	和 田 優	3日
眼 科	山 田 芳	10日
歯 科 口 腔 外 科	朽 名	14日、17日

科 名	医 師 名	不 在 日
整 形 外 科・ 関 節 再 建 外 科	堀 井	3日
	重 本	3日、6日
産 婦 人 科	長谷川徹	9日、10日
	竹 内	1日
精 神 科	長谷川雄	17日
形 成 外 科	宮 下 松	17日
	稲 垣 洸	20日、21日
皮 膚 科	大 石	22日、23日、24日
脳 神 経 外 科	毛 利	29日、31日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

今年の夏は記録的な暑さが続き、皆様も体調管理にご苦労されたことと思います。我が家では猫を飼っていますが、その猫は冷房が嫌いで、涼しい部屋から出ていき、廊下や洗面所、寝室のベッドの下と場所を移動しながら床にベターっと伸びて過ごしています。飼い主は脱水にならないかと心配しているのですが心配をよそに、お腹がすくと居間にごはんを食べに戻ってくるというマイペースぶりです。

残暑厳しい中にも夜になると虫の音が聞こえ、秋の気配が少しずつ近づいてきています。地域連携も季節の移ろいのように、地域の皆様と共に積み重ねていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ふれあい地域医療センター 下方 光枝



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

